







6 予算委員として平成27年度予算審議 7 マスコミのインタビューも多数 8 BSフジ「プライムニュース」に生出演。日中関係について討論  
9 成田国際空港推進議連として、太田国交大臣に決議書を提出 10 地元小学生を対象に勉強会を開催。テーマは「ルールって何？」  
11 同僚議員との勉強会を主催。写真は出井伸之 元ソニー株式会社CEO 12 各種会合で積極的に政策提言 13 外交強化は日本の生命線  
14 大賀ハスは地元の宝 15 国際ドローン展視察(幕張メッセ)

め、楽観的な前提が目立ちます。「歳出削減ありき」の硬直的な思考に陥るのは良くありませんが、将来世代に対する責任を果たすためには、医療分野をはじめ、膨張する社会保障費をどうコントロールしていくのか、各論について、しがらみにとらわれることなく、掘り下げた議論を行っていくのが我々世代の責任であると考えています。

#### 外務委員会

外務委員会では、中国人民元の国際化の動きについて岸田外務大臣に質疑を行いました。世界経済の中で人民元が急速に普及しつつあります。国際決済に人民元建てが占める割合は昨年12月に2.2%へと急増。決済通貨ランキング4位の日本円(2.7%)に迫る勢いですが、我が国の対応は定まっておられません。加えて、中国政府が人民元国際化の先に何を考えているのか。中長期的に米ドルのような基軸通貨にしていくことまでも見据えているとすれば、将来のアジアにおける日米中の力学にも大きな影響を与える可能性があります。国際金融の課題は、従来から財務省が担当していますが、経済のみならず、外交・安全保障の視点からも捉えるべきであるというのが私の持論です。縦割りの弊害を排し、オールジャパンとしての対応を政府に強く求めました。

#### 平和安全法制

本国会の最大の焦点は、「平和安全法制」です。この法案は、一部で喧伝されるような「戦争法案」ではありません。我が国を取り巻く環境が急速かつ著しく変化し、不測の事態が生じるリスクが高まる中で、むしろ「戦争を未然に抑止する法案」です。戦後七十年間享受してきた平和を、この先も享受し続けたい。これは党派を問わず、誰もが願うこと。「戦争に巻き込まれても仕方ないよね」といったような中途半端な気持ちで国会審議に参加している議員はいないと思います。我々国会議員は、与野党問わず、国民の皆様が念願する恒久的な平和を確保する手段として、現実

的に何が最も妥当な方策なのかを真摯に議論しなければなりません。

中国とは中長期的に信頼関係を構築していくことが双方の国益に適うことは間違いありません。しかし、足元では①軍事費・力の急増、②核廃絶の潮流に反し、世界で唯一、核弾頭の数を増加、③東・南シナ海での力を背景とした一方的な現状変更の動きなど、「事実」を踏まえた上で、平和を実現するための備えをしておく必要があります。

地元の皆様からは「国会審議がわかりにくい」との声を頂きます。週末を中心に各地区で開催している国政報告会にご参加頂く方々からは、「なるほど、ようやく分かったよ」との声を多数頂きますが、国民の皆様のご理解を頂くための努力が与党として更に必要だと感じています。

批判する野党を批判しても意味はありません。まずは与党としてやるべきことがある。異なる意見にも耳を傾けなければなりません。憲法の基本原則を尊重・遵守することは当然のことです。権力を持つ与党がマスコミ等からチエックされることも、報道の自由を尊重することも当然のこと。与党であるからこそ、謙虚に、丁寧な国会運営を心掛けていかねばなりません。

#### 議員立法

最後に、現在、国会が政局の様相を呈しているからこそ、政治家は政策本位の正道を行くべきです。私を中心となって進めております議員立法(「国外犯罪被害者慰金等の支給に関する法律案」)は民主・維新・共産の野党各党を含め、全会派一致で今国会で成立させるべく最終段階の調整に入っております。

今後とも地道に活動を続けてまいりますので、ご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成二十七年八月吉日

衆議院議員

小林鷹之

